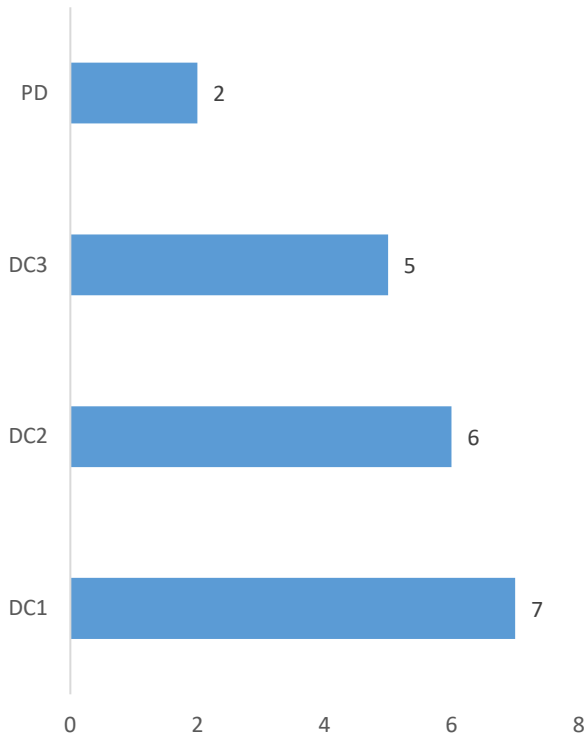


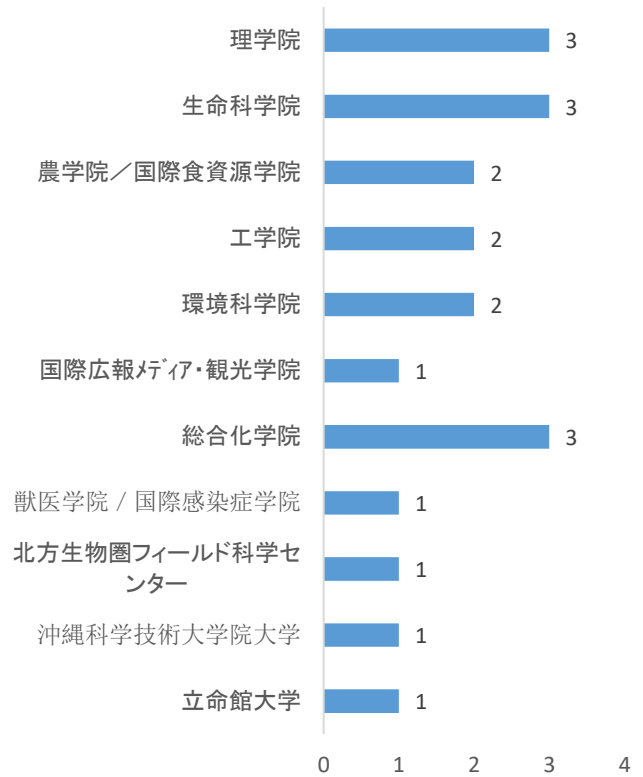
第51回 (R4第3回) 赤い糸会 (ONLINE) アンケート

[1] 回答者：博士人材20名・企業16名 (参加者：博士人材20名・企業15社)

博士人材学年

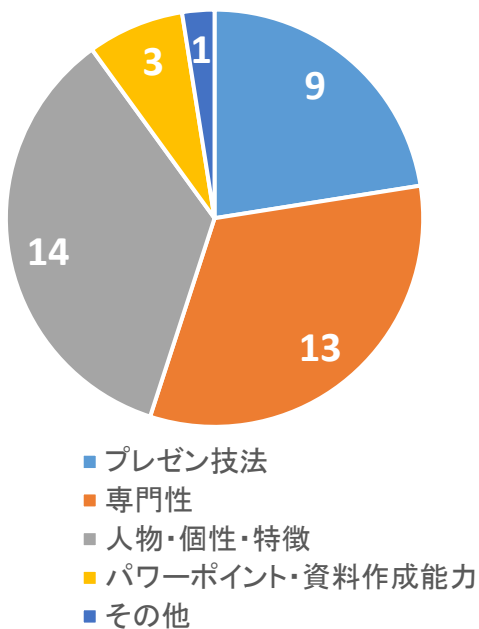


博士人材所属

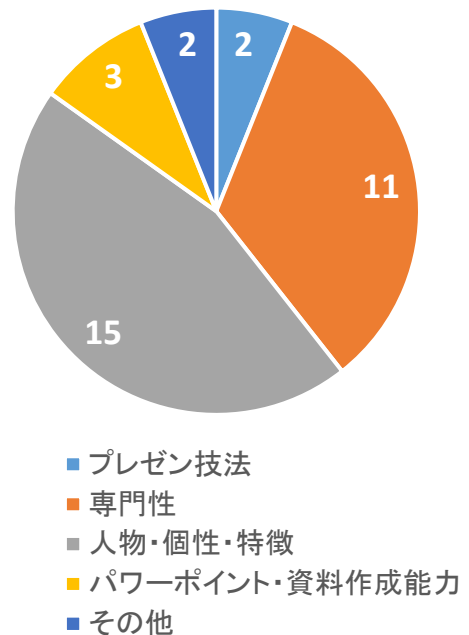


[2] 博士人材プレゼンテーション

アピールできた点(博士人材)



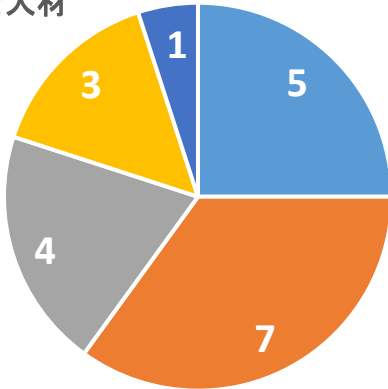
注目する点(企業)



[3] 企業／博士人材とコンタクトがとれましたか？

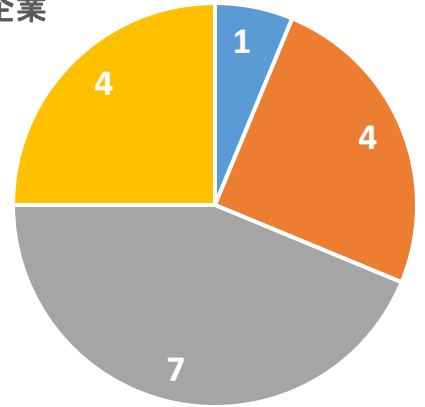
■連絡先一覧を使用してのコンタクトについて

博士人材



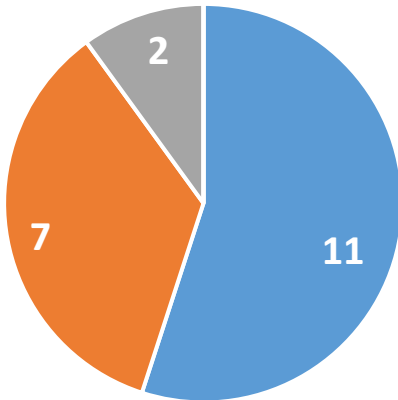
- 十分コンタクトがとれた
- ある程度はコンタクトがとれた
- あまりコンタクトがとれなかった
- 全くコンタクトがとれなかった
- その他

企業



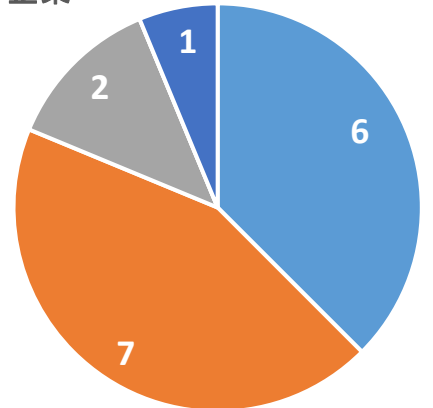
■Zoom(企業ルーム交流会)でのコンタクトについて

博士人材



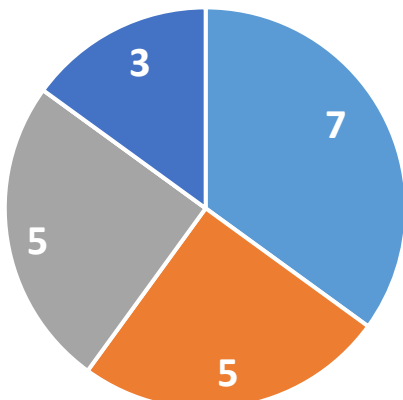
- 十分コンタクトがとれた
- ある程度はコンタクトがとれた
- あまりコンタクトがとれなかった
- 全くコンタクトがとれなかった
- その他

企業



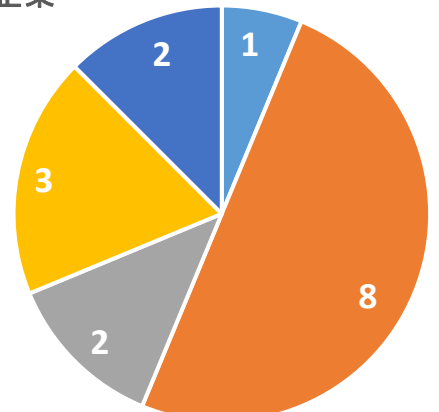
■SpatialChat(懇親会)でのコンタクトについて

博士人材



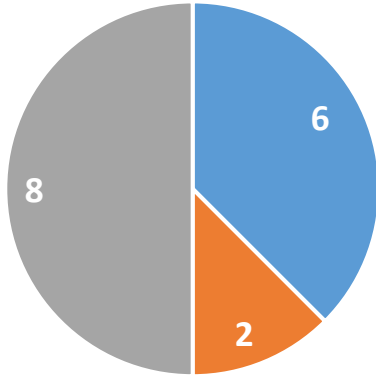
- 十分コンタクトがとれた
- ある程度はコンタクトがとれた
- あまりコンタクトがとれなかった
- 全くコンタクトがとれなかった
- その他

企業



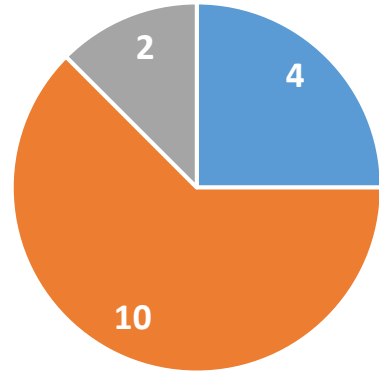
[4] 企業のみ

参加博士人材について



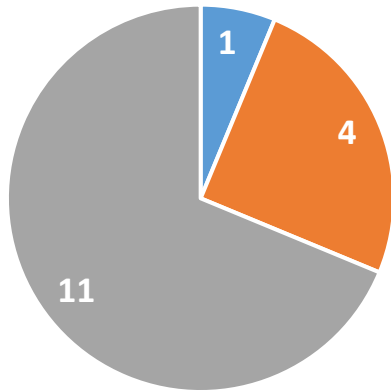
- 1. 興味のある研究内容の博士人材が多い
- 2. 興味のある研究内容の博士人材が少ない
- 3. どちらでもない

参加博士人材に対する今後の対応をお聞かせください。



- 1. 採用したい博士人材がいたので、今後交渉を進めたい
- 2. 採用については未定だが、今後もコンタクトを取りたい博士人材がいた
- 3. コンタクトを取りたい博士人材はいない

DC・PDのインターンシップ(1ヵ月位)について



- 1. 受け入れを表明している
- 2. 受け入れてもよい
- 3. 受け入れは難しい

「3.受け入れは難しい」を選択された方：
差し支えなければ、理由をお教えてください。

現時点で制度化されていませんが、過去にはマッチングが明確だった場合に受け入れさせていただいた実績はあります。

個別の受け入れは困難ですが、長期インターンを開催しておりますので、こちらにご応募頂きたく考えております。

コロナの影響もあり、今年は博士のインターンを実施しないことに決まっているため。

定期的に独自の長期インターンシップ(15-18ヵ月)を行っているため。

修士対象のインターンシッププログラムを現在実施している為

弊社では人事常設のインターンシップがベースかと思えます。

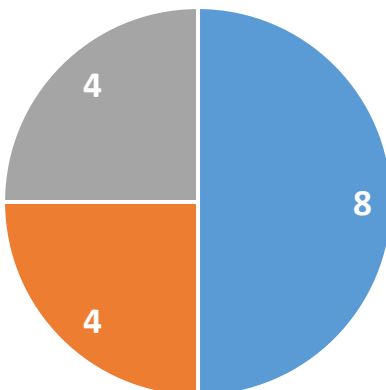
書類選考や面接等を実施した上であれば検討も可能です。

現場のプロジェクトとの調整が現時点では難しいため。

新型コロナウイルスの感染状況による

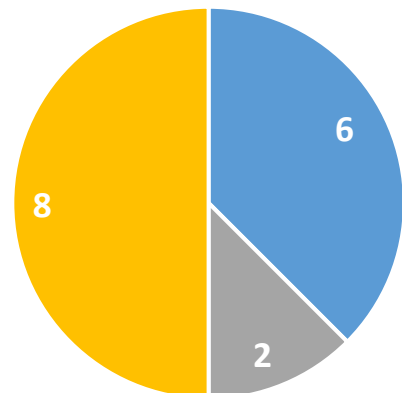
機密情報が多いため受け入れが難しい

DC採用について



- 1. 定期的に採用したい
- 2. 時期に関わらず、採用したい
- 3. 採用については未定

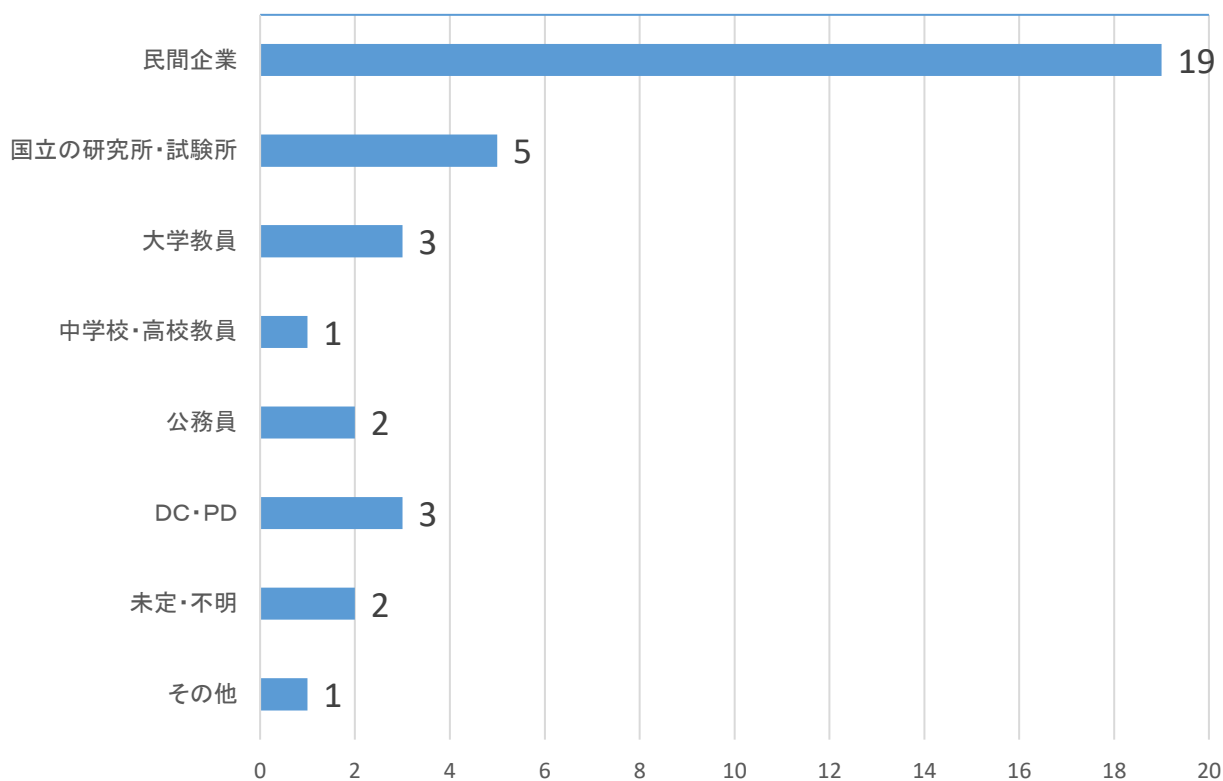
Hi-System(博士人材と企業の双方向ネットワーク)はどのように利用していますか？



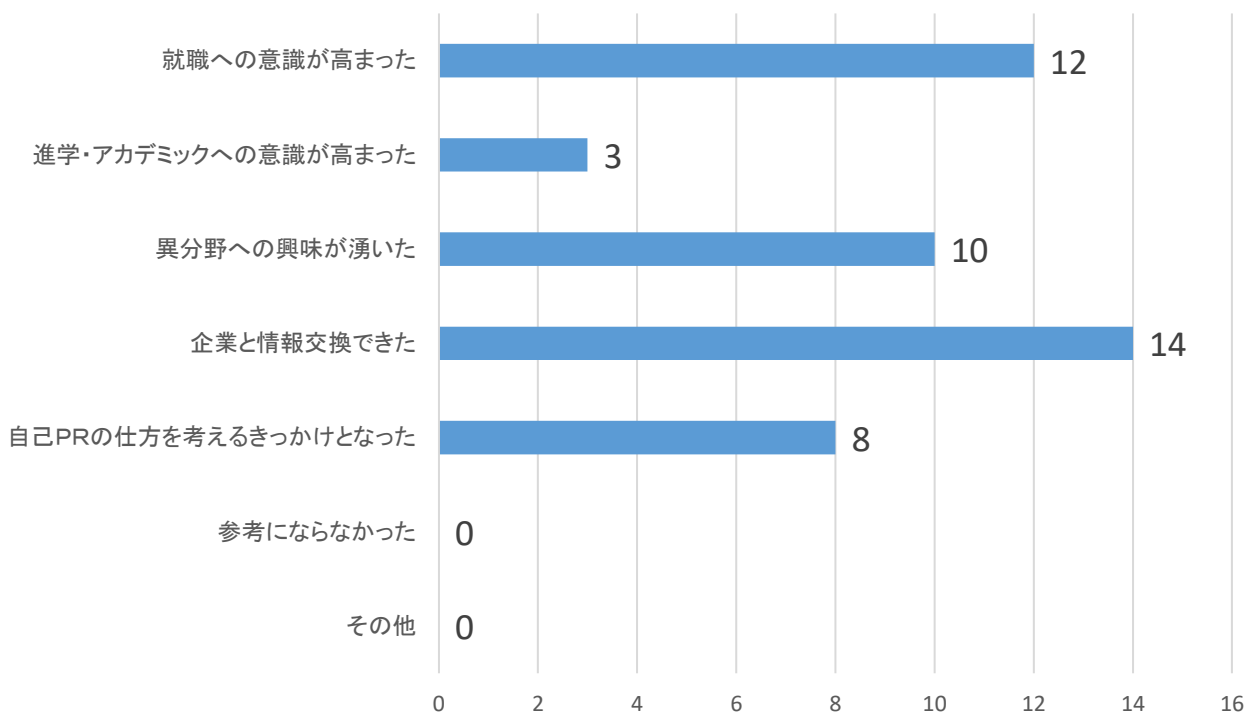
- 1. イベント参加
- 2. コミュニティ
- 3. 博士人材検索
- 4. 利用していない

[5] 博士人材のみ

あなたは、今後のキャリアパスをどのように考えていますか？（複数回答可）



「赤い糸ONLINE」は、進路決定の参考になりましたか？（複数回答可）

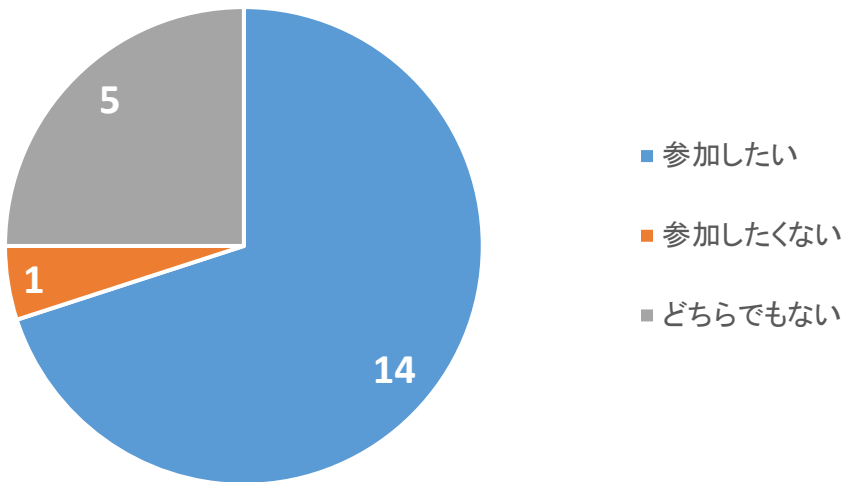


[6] 「赤い糸ONLINE」に参加して新たな気づきはありましたか。
それはどのようなことですか。（博士人材のみ）

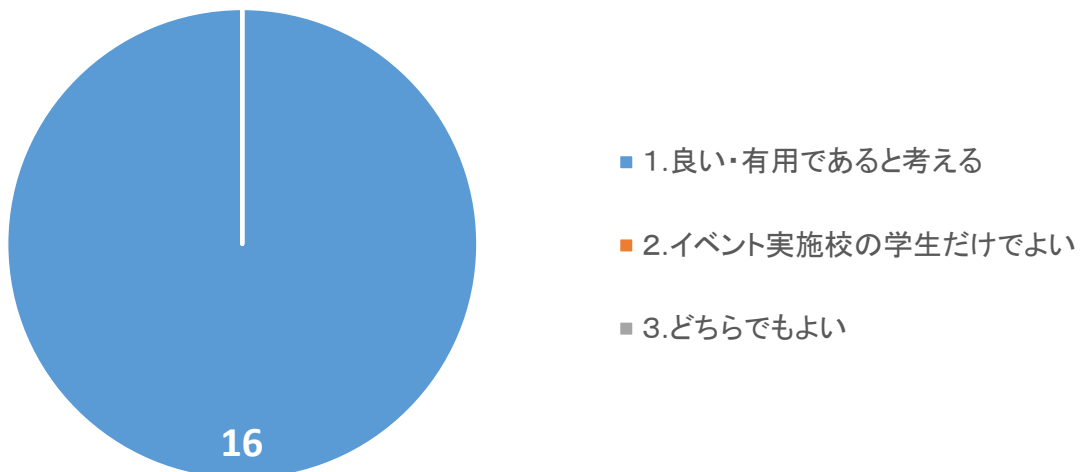
| | |
|----|---|
| 1 | 研究への取り組みは、企業に進むかアカデミックに進むかも重要な要素ですが、特に個人の熱意や意欲が重要だということを色々な方からのお話を聞いて理解しました。個人的には、よりジェネラルに研究というものに取り組みたいと考えており、比較的自由な活動が許容される大学や国立研究所などの方が合っているのではないかと感じています。 |
| 2 | オンラインの参加は自身の性格上不得意だなと思っていたが、プレゼンでしっかりと名前と専門を覚えてもらえることができたため、その後の企業説明、交流会でも具体的に次につなげることができたように思えます。 |
| 3 | 本当に今まで考えてこなかった業種に関する興味も湧いたきっかけになり、また前回参加した際の反省を活かすことができたため、とても有意義な時間を過ごすことができた。 |
| 4 | 案外、自分の専門に近い企業に就職したいと考えてることに気づいた。 もしくは、全く畑違いの所が良いかと考えてることに気づいた。 |
| 5 | 研究職の方に対する評価も企業ごとに異なっており、企業を調べるうえでは重要な項目かもしれないと考えるようになった。 |
| 6 | 企業の事業内容は幅広いので、興味を持って赤い糸みたいの交流会で様々な企業と交流する事が大切です |
| 7 | 自分があまり興味を持って来なかった分野にも、興味を注がれる企業があるということ。 |
| 8 | 短い時間でわかりやすく研究を説明する難しさを改めて実感しました。 |
| 9 | 自分にあった企業のビジョンを少し詳しく描けるようになった |
| 10 | 自身の研究の立ち位置 |

[7] 東北大学・名古屋大学・北海道大学におけるコンソーシアム（全12大学）の取組みで、本会のような各大学マッチングイベントに連携大学の学生が参加可能なことについて

博士人材



企業



コンソーシアム(全12大学)の取組みについてご意見がございましたらお聞かせください。

赤い糸会での連携大学学生の比率を増やしていただけると幸いです。
人材の更なる多様化を期待いたします。

企業としては、幅広い博士学生の方とお会いできるのは非常にうれしいです。

[8] 今後、博士人材へ期待すること・要望など（企業のみ）

| | |
|----|---|
| 1 | 高い専門性はもちろん必須ではございますが、関連分野にも積極的に関わっていただける研究員を募集しております。興味関心の幅が広く、物事に対する柔軟な考え方ができる方は当社のようなベンチャー企業で大きく飛躍されることと思います。 |
| 2 | 1点特化も非常に重要と考えますが、やはり1点特化+ α があると採用のハードルが下がる印象です。例えば、機械系の4力を主軸としつつもプログラミングを学んでいるなど。 |
| 3 | 博士人材への期待ではなく、博士人材を預かる教授(先生)について。就職活動に対して後ろ向きな先生がいらっしゃるようにお聞きするので、博士人材の心情面が心配です。 |
| 4 | どうしても専門性の高さから視野が狭くなりがちで、それはご本人たちも理解されているようなので、幅広く社会とかかわる機会を持って貰えると良いかと思えます。 |
| 5 | 企業の取り組みやビジョンなどを事前にご確認いただき、ご自身がそれに共感できるかどうか重要です。 |
| 6 | 研究職以外の職種にも視野を広げる、また、学業以外で社会に触れる機会を作られると良いかと思えます。 |
| 7 | 自信をもって、自分の専門領域を磨き、それを社会還元するという強い志をプレ等で示してほしいです。 |
| 8 | 自身の考えだけで可能性を狭めず、弊社に限らず色々な会社にコンタクトをとってみてください。 |
| 9 | 専攻以外の分野への興味関心、自己の価値観に捕らわれず思考を巡らせる柔軟性 |
| 10 | 自らPDCA回して問題解決し、自ら行動して専門領域を拡げていく。 |
| 11 | 主体的に行動できること。自ら疑問を持って研究に取り組めること。 |
| 12 | ご専門領域以外の可能性をどこまで許容可能か判断頂くための準備 |
| 13 | DX関連についても知識を保有していると尚良いと感じました。 |
| 14 | 丁寧に研究に取り組んでいただくこと |
| 15 | 高い専門性と課題解決能力 |

[9] 全体を通して、「赤い糸会」（赤い糸ONLINE）についての意見、要望など

博士人材

| | |
|---|---|
| 1 | 企業ルーム訪問の自由訪問の際にどの企業がもともと何人参加しているのかわからなかったため、どのブレイクアウトルームが空いているのかが分かりづらかった。システム上それらを識別することは難しいと思うので、せめて事前に企業の方の人数だけは把握できるようにしていただくとわかりやすかったかもしれない。 |
| 2 | 時間がタイトすぎます。移動を含めると実質5分で研究の話をするようになるわけですが、中身を0にしない限り不可能と考えます。また、8分使うと企業側からの話を聞くことができないので「じゃあまた後で話しましょう」となって熱が冷めます。対面のときも指摘しましたが時間がタイトすぎます。 |
| 3 | 企業ルーム交流会で、自分1人に対して企業の方が複数人の会があり、お互い間を持たせるのに苦労していたように感じたので、割り振りの訪問については可能であれば学生2人以上にしたいです。 |
| 4 | 自分のセールスポイントを実践経験を通して知ることができたとし、思ってもみなかった企業とマッチングすることができて、面白い会でした。 |
| 5 | 休憩時間が程よく設けられていたため、集中力があまり落ちることなく、参加できました。ありがとうございます。 |
| 6 | 毎回スムーズな進行でとてもうれしいです。 |

企業

| | |
|---|--|
| 1 | 博士の皆さんがかなり視野を広く見られていたのととてもよかったです。・会議進行につきまして2点ございます。 >ブレイクアウトルーム終了前のアナウンスを10秒ではなく、30秒など余裕が欲しいです。10秒では会議の締めが間に合いませんでした。 >ブレイクアウトルーム退出は強制ではなく選択方式がありがたいです。ただ、全体を通して非常にスムーズな運営だったと存じます。事前の準備など大変だったかと存じますが、おかげさまで有意義な時間を過ごすことができました。深謝申し上げます。 |
| 2 | 様々な学生と交流させていただきありがとうございました。積極的に質問されるドクターが多く、非常に良い機会をいただけ感謝しております。他大学のドクターイベントと比較したときに準備物と当日の負荷が大きく(参加者も2名以上)、少し参加するためのハードルが高いように感じました。後日表彰されるとのことですが、ノベルティも誰にどのように配布されるのか不透明なところがございいますので、準備不要になるのであれば大変助かります。色々とお申し上げて申し訳ございませんが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。 |
| 3 | 毎度素晴らしい機会を頂きありがとうございます。今回のオンラインで6時間は長時間であり、企業側も学生側もメリハリに欠けるよう感じました。半日実施あればオンサイト、オンラインであれば今回の半分ほどの時間枠で十分に思います。また、弊社の選考は12月初旬、職種によっては10月末にエントリー締め切りとなるため、9-10月頃の開催枠に参加させて頂けると幸いです。 |
| 4 | 参加学生のほぼ全員とコミュニケーションを取ることができました。前段の博士プレゼンにより、学生の人となりを知ることができたので、後半の企業説明会では博士の研究内容を加味した上で会話することができました。とてもスムーズに進行していただき、ありがとうございました。今後とも引き続きよろしくお願いいたします。 |
| 5 | オンラインで6時間強は長かったです。その割にSpatial Chatなどは気軽に話すには特に学生さん側からのハードルが高いように思われ、ほとんどコミュニケーションが取れませんでした(少なくとも弊社のスペースには学生さんが来なかった)。ぜひ次回はオンサイトでの開催を希望します。 |
| 6 | 様々な準備、ご対応ありがとうございました。当社の採用状況が申込した時点と現在とで変化がありました(現在新卒採用がほぼ動いておりませんが、今後よいご縁があることを願っております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。 |

企業

| | |
|----|--|
| 7 | 学生の方のプレゼン部分は、マッチングさせずに企業が自由に学生の方のところへ会いに行くスタイルが良いです。(zoomの切り替えも大変かと思しますので、oViceなどのツールを検討いただけると嬉しいです) |
| 8 | いつもお気遣いいただき感謝申し上げます。SpatialChatでは弊社のネットワークの問題で円滑にコミュニケーションがとれませんでしたこと、お詫び申し上げます。 |
| 9 | 博士プレゼン、企業プレゼンの時間が短く、質疑等の学生との対話する時間が十分ではなかったため、各回の時間をもう少し長くっていただけるとありがたいと思います。 |
| 10 | ONLINEという非常に企画運営が難しい中、良い人材を見つけられる機会を持つことができました。ありがとうございました。 |
| 11 | 多くの博士学生と話をすることができました。このような機会を設けてくださりましてありがとうございました。 |
| 12 | 博士ポスターの時間、各人あと数分欲しかったです。 |
| 13 | 様々な方の興味深い研究が聞けて良かったです。 |
| 14 | うまく設計された会だと思います。 |
| 15 | 同じ北大系のイベントである、「北海道大学工学系博士フォーラム 2022」と日程をずらしていただけると助かります。(1週間違いだったため) |

[10] J-window（先端人材育成センター担当教員との面談、エントリーシートなどの添削、面接練習）の利用について

